

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3071000453		
法人名	医療法人 敬英会		
事業所名	グループホーム 幸楽の里	【ユニット名:けやき】	
所在地	和歌山県橋本市隅田町山内1919番の3		
自己評価作成日	平成26年8月30日	評価結果市町村受理日	平成26年12月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

介護力向上と資格獲得を後押しするべく、介護職員初任者習得支援、介護福祉士やケアマネージャーの勉強会、看護師奨学金制度があり、スキルアップに力を入れている。同じ敷地内に託児所や社宅も設けており、職員が働きやすい環境作りにも気を配っている。自事業所の多機能化により、地域の方のニーズに応えやすい環境が整いつつあり、小学校や中学校の体験学習、シニアカレッジさん研修受け入れ、介護職員初任者研修の受け入れと、開放された施設である。自宅に近い雰囲気作りにも心掛け、日々を穏やかに過ごして頂けるように努めている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3071000453-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成26年9月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームはリビングの窓一面からは、四季折々の自然を眺めることができ、利用者は自然の景色を眺めながら穏やかに過ごされています。利用者が家庭的な環境の中で尊厳ある生活ができるよう役割を持ち力を発揮できる機会作りや地域交流などの思いを込めた理念の基、日々の支援を実践しています。旬の物や好みを取り入れた食事作りでは利用者はできる事に携わり、職員も共に食卓を囲んでおり、利用者の食事への楽しみが広がり、家庭的で温かな雰囲気を作っています。また職員は地域の運動会の打ち合わせや溝掃除、草刈りに積極的に参加したり、利用者が主体の菜の花祭では、利用者が作る漬物が地域の方と交流できる機会となるなど地域との繋がりを大切にしています。複合施設内には託児所や職員寮も併設し、職員が安心して働き続けられる環境を整えています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	数年前より新理念を作る為、全職員で考えたが答えが見つからず進展していない。しかし、地域密着型サービスの意義をみんなが理解し、共有出来ているように思う。職員が理念に添って実践出来るよう努めている。	法人理念の基、開設時に考えた独自の理念を玄関に掲げています。家庭的な雰囲気と残存能力を活かした生活や尊厳の重視について各項目毎に目指す方向性を示し、職員に具体的に説明しながら日々のケアの中で実践しています。簡潔で分かりやすい理念への見直しを検討しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営委員会を定期的に関き、地域の行事(夏祭り・運動会等)に利用者様、職員で参加させて頂いている。又、当施設のクリスマス会にはご招待する事が慣例となっており、必ず参加させて頂いている。今年は菜の花祭りなどにも初めて参加させて頂いた。	ハガキや電話で地域の行事の案内があり、地域の菜の花祭りでは利用者がメインになって漬物を作り参加したり、買い物や受診先で出会った方とは挨拶を交しています。併設の託児所から毎月便りが届いたり、併設施設と合同の夏まつりで地域の方と交流しています。マジックや傾聴ボランティアの来訪の他、ボランティアの方と一緒に花見弁当を作り、花の文化園に出かけています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアの方に月1回、来所して頂き、利用者様の話相手やレクリエーションに参加して頂いている。又、お花見やクリスマス会もお手伝いして頂き、一緒に過ごす事で理解を得られるよう努力している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の地域運営推進会議を開催し、より良いサービスを提供出来るように、又地域の方々との交流を深めていけるよう心掛けている。	会議は、市の介護保険課、老人会会長、区長、長寿会会町等の参加の下、隔月に開催しています。ホームの状況や行事の報告後に意見交換をし、地域の行事計画などの情報を得て、地域の運動会の打ち合わせに行ったり、予防体操の講師の依頼を受け出かける等、ホームを知ってもらえる機会に繋がっています。	行政や地域住民の参加が得られた中で有意義な会議を展開されていますので、今後は家族にも参加してもらえよう工夫されてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	密に連絡を取り合う事はしていないが、必要に応じて介護保険の担当者の方やいきいき長寿会の方々との連絡を取っている。市からの要望などで協力出来る事は積極的に取り組むようにしている。	運営推進会議に市の担当者の参加があり、制度上の分からない事や相談事があれば気軽に市へ出かけたり、実情を伝えるようにしています。市主催の研修にはできるだけ参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜9時から朝7時30分までは施錠しているが、日中は鍵をかけていない。玄関や出入り口には鈴等を付けて人の出入りに気づけるようにし、見守りの重視をはかっている。又、職員間で身体拘束をしないという重要性を確認している。	玄関やホーム内には掃き出し窓が多くあり、利用者は自由に入出入りすることができ、身体拘束をしないケアを実践しています。転倒防止の為にペット柵やセンサーマットの使用、言葉による行動の抑制なども含め具体的な事例等で拘束に当たらないか等を話し合い、身体拘束について学んでいます。外に出たい利用者には納得してもらえらるまで一緒に付き添っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会などに出席学ぶ機会はないが、フロア会議における勉強会などにより、スタッフの知識向上に努めている。		

グループホーム幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対応としては管理者が行っている。資格習得という事で、勉強をする機会はあるようだが、自施設ではあまり必要性を感じていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結に至るまで時間をかけ、理解して頂いているが、その後も疑問点などがあれば、その都度納得がいくまで、お話させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様が来所された時などに、必ず職員が利用者様の様子を話させて頂いている。又、家族様のご意見、ご要望があれば可能な限り、即実行するようにしている。	家族の面会時には職員が利用者の様子を伝える中で意見を聞いたり、電話でも様子を伝え意見を聞いています。個別のケアの要望やリビングの雰囲気作りについて等の意見が出され、出された意見は改善できるよう会議で検討し、静かな時は音楽を流すなど、リビングの雰囲気作りを心がけ、運営に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人では月2回の全体会議を設けている。幸楽の里は月に1回フロア会議を開き、全スタッフが必ず発言すると言う形をとり、問題意識の向上を計っている。又、年2回の個人面談で意見を述べる機会がある。	法人の全体会議やフロア会議、管理者が行う個人面談等、職員が意見を出せる機会が多くあります。個別の相談に随時対応したり、管理者から個々に声をかけ意見を求める等、意見を出しやすい工夫をしています。日々の業務内容の見直しや物品購入について意見が出され、案件によっては法人に挙げて話し合われ、職員のやりがいに繋げています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員には自己評価を出してもらい、その後、管理者が面接し評価することで公平を期するようにし、スタッフが心地よく勤務出来るよう対処している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護福祉士やケアマネージャーなどの資格取得を奨励し、合格者には奨励金制度を設けている。又、その為の勉強会も実施し、勤務日の調整を行ったりするなどして、支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会などで情報交換する様な機会はあるが、ネットワーク作りや勉強会をするまでには至らない。		

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	話をゆっくり聴く事で、まず思いを受け止め、本人の願いや支援してほしい事を知り、今までの延長として安心して幸楽で生活して頂けるように信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様の要望や不安に思っている事などをお聞きし、要望に添えるような情報などを収集するなどして、面会時や電話でもお話するようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長年培ってきた習慣や、生活環境などをお聞きし、今何が必要であるかを見極め職員間で共有、家族様にも協力して頂き、ゆったりと落ち着いた生活が送れるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来る事を見極め、色々な事に積極的に参加して頂き、必要とされているという実感と自信を持って頂けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様に施設行事(お祭り・クリスマス会など)に参加して頂いたり、利用者様の誕生日には一緒にお祝いして頂けるよう連絡するなどして、ご家族様と共に利用者様を支えていくよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や、ご近所の方が来所された時は、楽しい時間を過ごして頂けるよう、お部屋にお通しし、お茶など飲み物をお持ちしています。	友人や近所の方、知人の面会時には居室へ案内し、ゆっくりしてもらっています。民生委員の協力を得て疎遠だった姉妹が自宅で再会ができたり、墓参りに職員が付き添う等、思いに沿った支援をしています。家族と法事や外食、馴染みの美容室へ行かれる方は準備を支援するなど、これまでの人や場所との関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士が良好な関係を保てるように、努めています。入所して日の浅い方はお話し上手の方と席を近くにしたりして、少しでも早く馴染んで頂けるよう心掛けています。		

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になった利用者様の所にも、かかさず見舞いに行き、家族様の考えを聞きながら利用者様にとって1番良い対応が出来るよう、家族様の意向にも添えるように支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様との会話の中から、1人1人の思いを汲み取り、それぞれの思いを全職員で共有し、話し合うようにしている。家族様にも日頃の様子や思いをお伝えし、協力を得ながら解決出来るよう努力している。	入居に際し自宅で面談を行い、本人、家族から聞いた意向や思い等をフエースシートに記入し、前の事業所の情報と併せ、思いや意向を把握しています。入居後の関わりの中で気づいたことや利用者の発した言葉などは介護記録に記入し、フロア会議で検討し思いが把握できるように努めています。困難な時はその人の立場に立ち、その時々表情等から思いを汲み取れるよう心がけています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	地域の風習や、今までの生活環境を普段の会話やアセスメントシートなどから把握し、好きな事や得意な事をしてもらえよう支援するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24時間の個人記録用紙に記入し、申し送り時や出勤時に目を通し、利用者様の状態を把握するようにしている。又、出勤時には利用者様に挨拶をし、様子を確認して勤務に就くようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回フロア一会議を開き、問題点や改善策を職員全員で話し合い、介護計画の見直しをしている。	アセスメントや本人、家族の思いや意向を基に介護計画を作成しています。毎月フロア会議でモニタリングを行い、3か月から6か月で評価し、介護計画を見直しています。担当者の考えた見直し案を計画作成者がまとめ、現状に即した介護計画となるよう努めています。日々の記録に医療情報に沿った内容も記入し、介護計画に反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1人1人の様子を記録に残し、申し送り等で情報を共有するようにしている。記録から介護計画の見直しに活用する事もある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の事情も考慮し、相談しながら出来る限り希望に添えるようにしている。必要に応じて、歯科衛生士・看護師・理学療法士に協力を得ている。		

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者様には季節折々の行事や、地域の行事に参加して頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時の同行や往診、訪問看護をお願いするなど利用者様や、家族様のご希望に添えるよう考慮しています。又、受診報告書・往診報告書を作成し、家族様・法人ナース・職員が体調を把握出来るよう、支援している。	これまでのかかりつけ医を継続している方も多く、往診を受けたり、家族が受診を支援し、必要な時は職員も支援をしています。協力医へ変更した方は受診したり、受診が難しくなった場合には往診してもらっています。訪問歯科や訪問看護師は希望する方が受け、法人の理学療法士に相談し来てもらう事もあります。受診報告書や往診報告書で医療情報を共有し家族にも説明しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	些細な事でもきちんと記録に残し、必要時にはその人だけの個人記録を作成。法人内のナース・歯科衛生士・理学療法士・訪問看護師にわかりやすく、相談しやすい体制作りを心掛けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	服薬や入院に必要な物、生活歴を出来るだけ早く提供し、安心して治療が出来るようにしている。面接時には利用者様だけでなく、担当ナースにも会うようにし、状態を聞いたり、退院後必要だと思われる情報交換や、やり方の確認をするようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様・主治医・管理者で話し合いを持ち、出来る事を十分説明しながら、今後の治療方針について話し合い、関係者と共に連携しながら支援するようにしている。	看取りの指針に基づいてホームの方針を説明し、ホームで対応できる事やできない事等を伝えています。食事が摂り難くなった場合は医師から家族に説明が行われ、家族の思いを再確認し、関係者と方針を共有しながら看取りの支援をしています。職員の不安を解消できるよう個々の状態に沿った支援方法を看護師から聞き、フロア会議の中で意見を出し合ったり、緊急連絡先を再確認し取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事務所の電話近くの壁に、緊急マニュアルを貼っており、慌てて電話番号を間違わないようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	無洗米や水を備蓄し、電気が使えない時の為にガスコンロで炊く試みをした。又、職員にはひとり3個ほどカップラーメンを持ってきてもらい、職場に常備してもらうようにしている。	併設の事業所と合同で昼間を想定した訓練を年2回行い、内1回は消防署の協力を得ています。火元の確認や通報、初期消火、避難誘導の訓練を行い、利用者も参加しています。運営推進会議で案内や報告をしています。備蓄の準備や炊き出しの訓練を行い、同敷地内にある事業所間の災害時に於ける連絡網を整備しています。	運営推進会議に消防団長や近隣の区長が参加されており、避難訓練の参加を呼びかけたり、職員が少ない夜間を想定した訓練を実施されることを期待します。

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ時などは大きな声での声掛けはせず、さりげない声掛けをするよう心掛けている。又、女性の利用者様で男性職員の入浴介助が苦手な方には、女性職員で対応するなどの配慮をしている。	理念に尊厳ある生活の重視と謳い、丁寧な言葉遣いを心がけています。居室への出入りは声かけやノックを行い、了解を得て入室しています。信頼関係を築いた上で方言を使う時などは、馴れ合いにならないよう節度を持った対応や羞恥心に配慮した同姓介助も行っています。不適切な対応が見られた時は管理者が注意し、会議の議題に挙げ検討しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思疎通が困難な方もおられ、難しい時もあるが、利用者様のペースに合わせ、色んな声掛けをするようにしている。無理強いするような事はせず、利用者様のご自分の意思を示せるように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いする事なく、拒否された時は時間を置いて再度声掛けをしたり、職員が交代するようにしている。それでも拒否された時は記録に残し、どういう対応をすればよいか職員で話し合うようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節や好みに合わせ、利用者様が自己決定出来るような声掛けをしている。回数は少ないが、女性の方には、マニキュアを塗って差し上げたりして、喜んで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材を使い、彩りや盛り付け、食器などに気を配りながら調理している。盛り付け時は、利用者様の食事量や形態にも気をつけ、美味しく食べて頂けるよう努力している。利用者様と共に調理するのは難しいが、お盆拭きやテーブル拭きなど手伝ってもらえる事は願っています。	利用者に食べたい物を聞いて献立を立て、隔日に利用者と一緒に買い物に行き、食材を選んでもらっています。利用者は野菜の下ごしらえやテーブル拭き等できる事に携わっています。時にはそうめん流しをしたり、手作りの花見弁当やちらし寿司、赤飯、ケーキ等を一緒に作ったり、外食で回転寿司や喫茶店に出かけています。食べられない食事は代替食を提供し、職員も一緒に会話をしながら食事を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主食は利用者様の体調に合わせ、お粥やおにぎりに、副食もミキサー食や、食べやすい大きさにしています。水分は夕方に1度集計し、不足していたら牛乳、お茶などを提供し目標量に達するよう努力しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはもちろんの事、その他にも週に1度歯科衛生士が口腔ケアを行っている。又、必要に応じて歯科医が来て治療もしてくれている。夜間は入歯を預かり、入歯、歯ブラシ、コップも消毒液につけている。		

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	それぞれの排尿パターンを把握し、出来るだけトイレでの排泄を心掛けている。体操・ゲームの間にさりげなく声掛けするなどして、自尊心を傷つけないよう誘導している。	排泄の記録からパターンを把握し、個々に合った対応を行い、トイレで排泄できるよう支援しています。その方に合ったパッドの種類やコスト面にも配慮し、試供品で試したり、退院した方は早期に元の状況に戻れるよう支援しています。夜間使ったポータブルトイレは日中は片付け、トイレで排泄ができるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ自然に排便出来るように、毎朝ヨーグルトを、普段の食事には野菜を多く取り入れるようにしている。それでも排便がない時は、記録をつけて薬を服用し、便秘が続かないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は隔日だが、拒否された時は無理強いるような事はせず、変更するなどの対応をしている。その分、希望された他の利用者様に入って頂くようにしている。	入浴は隔日に、フロア毎に午前中や午後の時間帯に入ってもらい、重度の方も2人介助で対応し、安心して入ってもらえるよう支援しています。入浴を拒否される時はシャワー浴に変えたり、職員の交代や声かけのタイミングを変え、無理なく入れるよう工夫しています。柚子や菖蒲を使った季節湯や好みの石鹸、化粧水を使う方など入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	基準のベッドや布団、シーツなどを用意し、2週間に1回業者に出している。以前から使用している寝具(枕)や、褥瘡防止のベッドパッド、エアコン、電気こたつ、電気毛布などを使用し頂き、安眠できるようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に服用している薬は、薬箱に1週間分セットし、表から見えるように薬名、用法など記入した用紙を貼るようにしている。臨時薬は受診報告書に服用薬品名用紙を添付し、薬箱に何日分と送りノートに記入し、全員が把握出来るように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	以前からお好きだった事、興味を持っている事を聞きだし、楽しく過ごせるよう支援したり、その日の体調に配慮し、出来る事を手伝って頂いたりしている。手伝って頂いた時は感謝の言葉を添えて、労をねぎらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族様によっては外食に出かけたり、親戚が集まる機会を設けられたり、お墓参りに行かれる方もおられます。利用者様の話を聞いたり、様子を見て、こちらから家族様に外出をお願いする事もあります。	気候の良い時は玄関先で外気浴をしたり、ホーム周辺の散歩やドライブで公園等に行っています。市主催の菜の花祭りに出かけたり、桜やコスモス、紫陽花等、季節毎の花見に行っています。また河内長野の花の文化園へはボランティアの方の参加もあります。	

グループホーム 幸楽の里(けやき)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くに買い物をする所がなく、なかなか支援するのは難しいが、今年の夏祭りにはお金をお渡しし、やきそばやフランクフルトなど購入して頂く機会をつくる事が出来た。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様の希望がある時は、家族様の負担にならない程度に電話を取り次いでいるが、最近はありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは山が見え、小鳥の囀りも聞こえてきます。職員や家族様が持ってきてくれた花をテーブルに飾ったり、季節がわかるようなディスプレイを一緒に作り、ホールの壁に飾ったりしています。BGMも余り大きな音にならないよう心掛けています。	玄関や廊下、リビング等の共用空間は広く、明るいリビングからは周りの自然が見渡せ、飾られた生花からも季節を感じることができます。広い和室の上がり口は腰を下ろすことができ、リクライニング式のソファやベンチ、窓際にもソファを置き、随所に寛げる居場所を作っています。食事作りの音や匂いがする家庭的な雰囲気の中でゆったりと寛げるよう配慮しています。毎日掃除を行い、換気や温、湿度を管理し、居心地よく過ごせるよう心がけています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	東洗面台の前にある畳の椅子と、フロア内のテレビの前にあるソファが、ゆっくりしやすいようです。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を置き、家具の位置などにも配慮しながら、少しでも居心地が良く過ごして頂けるようにしている。	居室にはベットやクロゼットが備え付けられ、使い慣れた物を持ってきてもらうよう伝えています。家具や冷蔵庫、テレビ、テーブル、椅子、仏壇等を置き、使いやすいよう家族と配置を決めています。自宅と同じように過ごせるよう畳を敷いたり、動物のぬいぐるみや大切にしている物を身近に置き、その人らしい居室となるよう工夫しています。隔日に掃除を行い、日中はポータブルトイレは片づけ、清潔な居室となるよう心がけています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	転倒などされないよう、動線に物を置かないようにして、出来るだけご自分で好きに移動して頂けるようにしている。ひとりで危険な時は声掛けをしたり、介助するなどして安全に移動出来る所まで誘導している。		